

新春対談 2018

中津市長と中津青年会議所理事長

1

官民一体の地域力による 持続発展する中津の未来づくり

理事長 中津市は、その豊かな自然や歴史・文化、中津からあげや鯉を代表とするグルメ、高速道路網のインフラ整備によってその優位性は増しています。しかし長期的にみると人口減少問題にあることは変わりありません。これからも中津が持つポテンシャルを持続発展させていくためには**移住支援体制の構築と発信**が喫緊の課題であると考えます。移住促進の取り組みについて市長の考えをお聞かせください。

市長 移住促進の取り組みについては、移住者を呼び込むだけでなく、移住した人が定住することが大切です。そのためには、まず受け入れ体制が重要で、市では空き家バンク制度による住まいの確保に對する支援を行うとともに、移住支援チームを立ち上げ、移住前はもちろん**移住後の暮らしまでフォローする体制を整えています**。この支援チームには地域住民なども加わっていて、移住者を受け入れる

(公社)中津青年会議所
2018年度理事長 一木 武志

昭和54年生まれ。中津市出身。
(株)武蔵屋総本店 専務取締役。
2005年に(公社)中津青年会議所に入会。以降、数々の役職を経て、2018年理事長就任。



側の合意形成という役割も担っています。

理事長 なるほど。あらゆる**主体が一体となり積極的に連携・協力**し、力を合わせることで、それぞれの強みを活かした**フォロー体制を構築、展開できる**ということですね。

市長 そうですね。同時に、生活の糧となる仕事も重要です。移住支援チームでもサポートし、ある程度仕事の展望を持って移住される方も多いですが、**地域での働き口の紹介や、自ら地域で創業される方への支援**なども充実していく必要がありますね。また、女性が活躍できる仕事づくり、環境づくりという視点が重要ですね。そのため大分県と連携しながら、雇用創出や職場環境改善などについて、企業経営者の理解・協力を得ながら取り組んでいきます。さらに、今回、中津青年会議所が作成された移住促進提案の冊子など、多種多様な手段を使ってこれらの情報を発信していくことも大切ですね。

理事長 ありがとうございます。本年度も引き続き、中津市が掲げる施策の一つであります**地域住民有志を中心とした移住支援体制の構築と展開**を我々JCも連携させていただき、移住・定住促進を押し進めていきたいと考えております。

2

無限の可能性を秘めた 人財の育成

理事長 2020年度から新学習指導要領が全面实施され、教育の分野でも時代と共に変革期を迎えています。変化の激しい社会で生き抜いてもらうためには、主体性や協調性、道徳心を身につけた**子供達の「生きる力」を育む必要がある**と考えております。地域の**人財育成**として、子供達をサポートする親であり地域の大人としての在り方について市長のお考えをいただければ幸いです。

市長 福澤諭吉先生の教えである「**独立自尊**」の精神のとおり、子供達が自分で生き抜く力を身に付け、社会に出て活躍してもらうことが大切だと思います。そのためには、学校だけではなく**家庭や地域が一緒になって子供達の成長に関わり合う**必要があると思います。そのひとつのきっかけとして、「**ありがとう**」という言葉はコミュニケーションを円滑にしますよね。地域の大人

2018年度理事長 新年のご挨拶

皆様にとって輝かしい新年を迎えることができたこと心からお慶び申し上げます。平素は、青年会議所活動に格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。今年も昨年と変わらぬご理解とご協力のほど宜しくお願い申し上げます。さて、今年度の基本理念として～感謝の心をもって誠を尽くし、素直さと勇気を胸に夢と希望溢れる「中津」の未来を切り拓こう～と掲げました。子を持つ親として、地域の大人として家族への感謝や職場の仲間・友人への思いやりなど利他の精神を大切に、素直さと勇気を胸に世のため人のために事業を展開したいと考えております。未来へはばたく子供たちが描く夢や目標、ふるさと「中津」がより良く元気で明るいまちに発展で次世代へと繋ぐために、地域にある様々な課題解決を市民の皆様や行政、各種団体と互いに協力し合い、官民一体となって創る「中津」の発展に寄与するべくワクワク感を常に抱きつつ笑顔でJC運動していく所存です。一年間、何卒宜しくお願い致します。

2018年度理事長 一木 武志





中津市長 奥塚 正典
昭和28年生まれ。京都大学経済学部卒業後、大分県へ採用。観光振興、財政、企業立地、広報広聴等の仕事に従事。2011年総務部長、九州地方知事会事務局長。2013年3月大分航空ターミナル(株)代表取締役社長就任。2015年11月17日中津市長就任。

と子供が感謝の心を持ち、それを伝えあうことで、お互いに関わり合いが深まると思っています。

理事長 そうですね。子供達の教育を学校教育に依存するだけでなく、親子の間で「おはようございます」「いただきます」「ありがとう」という思いやりや感謝の気持ちが素直に交わされるといことは、とても幸せな関係ですよ。感謝の気持ちを素直に伝えられる親子の関係が家庭や地域に伝わり、より良い環境が形成されると私も考えます。

市長 また、子供達の職業観を育むことも大切で、市でも子供の頃から**地域の仕事や歴史・文化に触れる取り組みを進めています**。実は、中津市出身の若者の約6割は中津に残るか、もしくは戻ってきているんです。これからも、子供達が「中津はいいまちだ」と思えるまちづくりを目指さなければいけないし、どこにいても活躍できる人材になるための下地作りを力を入れていきたいと思っています。

理事長 家庭教育、地域教育の役割の重要性をしっかりと認識

し、地域の子供を自分の子供と考え「地域の子供は地域で育てる」という、地域全体で子供達を協育していく意識を高める必要もあると言えますね。

理事長 中津市において**企業の雇用創出や観光、移住等で国際化の波が押し寄せ**、現在、中津市には約1,000名もの居住外国人があり、10年前と比べおよそ2倍に増加しています。この国際化の波に対応すべく市内の小学校では英語教育の強化も進んでいます。外国との交流をする機会は多くないのが現状です。

市長 国際化には「外国人観光客の受け入れ」「経済的なヒト・モノの動きの拡大」「グローバルに活躍できる人材育成」という3つの視点があると思います。情報化の進展により世界中の情報が手に入る時代ですが、まず共通言語である英語での言語コミュニケーションがいずれの視点においても重要です。そのため、子供達とAPU留学生との交流など、小さな頃から**外国人と触れ合う機会を増やし、小中高と継続して英語に親しむ環境づくりを進めたい**と思っています。

理事長 中津青年会議所でも、創立20周年記念事業として、大韓民国晋州青年会議所との姉妹締結が行われ、それから44年もの永きに亘り歴史や文化の垣根を越えた国際交流を育んできました。諸先輩が辿り培ってきた功績と友情そして互いに**国際交流の意義を理解し合い、積極的な民間交流の機会を活かし、さらには、JCJ（国際青年会議所）が掲げる「恒久的な世界平和の実現」**に少しでも寄与できるものと信じ、意義のある交流を次代へと繋げていきたいと考えております。

市長 新たな試みとして、中津で働く外国人と地域住民との交流の場づくりにもチャレンジされていますね。韓国晋州との交流もそうですが、国際的な相互理解を促進する素晴らしい取り組みだと思います。これからも若者ならではの情熱、エネルギーとともに「ひたむきさ」を大切にして、様々な分野で中津の未来のために活躍していただきたいと思っています。

3 国際交流による 恒久的な世界平和への貢献

2017年度理事長 昨年の御礼

2017年度理事長 三宮 洋平



2017年度は「志」への挑戦～相互理解からつくる共創社会の実現～を基本理念に掲げ、一年間活動させていただきました。多くの皆様へ多大なご支援ご協力を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。昨年は、「人」というキーワードに注力し様々な事業を展開しました。私たち、中津青年会議所の運動の目的とは、世の中を変えることです。そして、世の中を変えるために必要なことは、人びとの意識を変えることです。もう一つは、課題を解決する仕組みを創って広めることです。「まちの未来」や「まちの私たち」を論じることは重要ですがより大切なことは、ビジョンを成すために個別の課題に対して、「熱い情熱」＝「自尊心」＝「志」といふべき事業を立案し、そこに、市民の皆様や行政・各種団体との協働を起こして課題を解決していくことが、新しい社会を創る一歩なのです。2018年度以降も中津青年会議所に対しましての変わらぬご理解ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

